

## 歴史(沿革)

- 1964(昭和39)年 ● 鳥羽市坂手町に水産研究所を設置
- 1965(昭和40)年 ● 黒ノリ、ワカメの種苗生産に取り組む
- 1971(昭和46)年 ● 鳥羽管内の海洋調査観測を開始
- 1983(昭和58)年 ● 名古屋大学菅島臨海実験所と協働し赤ウニの種苗生産に取り組む
- 1983(昭和58)年 ● アラメ・カジメの藻場造成用種苗の生産研究を開始
- 2002(平成14)年 ● 黒ノリ養殖の一期作方式への転換に取り組む
- 2004(平成16)年 ● ヒジキの養殖実証実験を開始
- 2009(平成21)年 ● 鳥羽磯部漁業協同組合答志支所青壮年部と取り組んだ藻場再生事業が農林水産祭天皇杯受賞
- 2019(平成31)年 ● 地域再生計画『鳥羽市水産研究所を核とした「とぼうみ」再生計画』が内閣府の採択を受け、地方創生拠点整備交付金等を活用した新事業を開始
- 2020(令和2)年 ● 鳥羽市小浜町に水産研究所を新設

## MAP



## 鳥羽市水産研究所

〒517-0015 三重県鳥羽市小浜町 641-9

TEL・FAX 0599-25-3316

URL <https://www.city.toba.mie.jp>

海の豊かさを守ろう!

鳥羽市  
水産  
研究所

TOBA FISHERIES SCIENCE CENTER







カジメ(若い個体)



プランクトン調査



植生調査



ワカメ(成熟葉、めかぶ)



種苗室



黒ノリ種苗(フリー培養)



水産と福祉の連携



ネジモク



首都圏での海藻食べ比べ会



黒ノリ



魚食普及講師派遣

# 鳥羽市の水産業を 持続可能なものにするために

## 鳥羽市水産研究所の主な事業内容

- 1 藻類養殖種苗の生産と試験研究
- 2 海洋環境（藻場等）の調査
- 3 藻類増殖等に関する調査研究
- 4 漁業者を対象とした研修会の実施（普及指導）
- 5 学校を対象とした海洋教育への協力
- 6 海の政策観光の推進による関係人口の拡大
- 7 多分野連携による産業振興

鳥羽市水産研究所を中核として、世界に誇れる持続可能な「海」の在り方を目指し、次の7つをキーワードに事業を展開していきます。



研究所外観

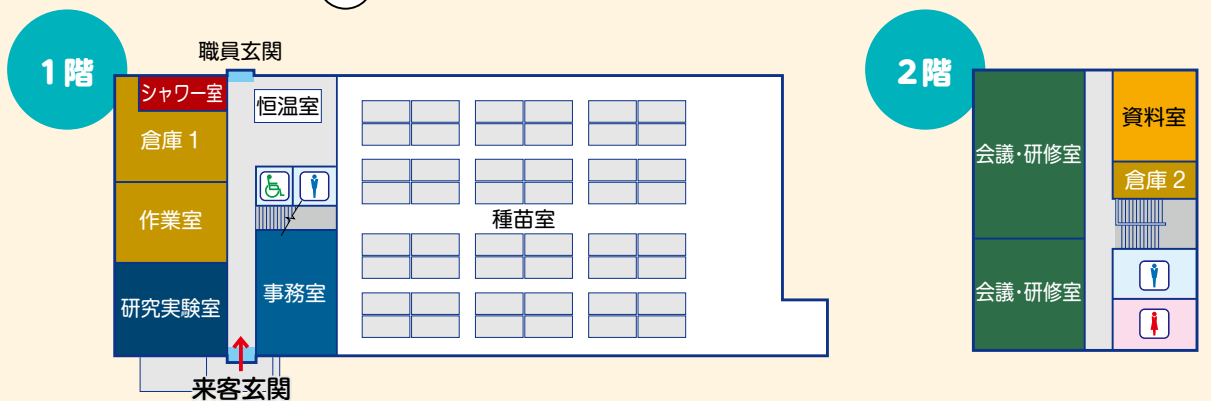


アマモ種取り

SDGs 目標14「海の豊かさを守ろう」を鳥羽市の視点から実践・実現を目指します。



## フロアマップ



設置者 鳥羽市  
 設立 2020年3月27日竣工  
 本体工事費 269,390千円  
 (内国費：134,695千円)

施設規模 ・鉄骨造一部2階建(種苗棟・事務棟)  
 ・建設面積 552.38㎡、延床面積 729.06㎡  
 ・事務室、会議・研修室、研究室、種苗室 ほか  
 ・所有船舶/第5かもめ丸、第8かもめ丸

## 目指す将来の姿

鳥羽の海は、広大な森林を背後に持つ木曾三川などのミネラル豊富な伊勢湾の海水と、熊野灘を北上する黒潮の潮流がぶつかり合う好漁場であり、豊かな水産資源に恵まれた世界に誇れる海といえます。沿岸環境や地球環境の変化を受けて、水産生物の生態、現存量などにも変化が生じ、これまでの水産業や消費活動の在り方、地域環境との付き合い方にも変化を余儀なくされており、「新しい鳥羽の水産業」、「新しい鳥羽の沿岸環境保全」などが必要とされています。

鳥羽市水産研究所がこれまで培ってきた、藻類の研究の経験や知見を最大限に発揮していくためにも、多分野の英知を結集させなければなりません。そのために研究機能の強化を図り、「鳥羽の海」が持つ強みを大学や研究機関といった多様な主体とともに研究し、海洋教育にも関わることで、関係人口や交流人口を創出する地域密着型水産振興拠点として発展させていきます。